



報道関係各位

2017年10月13日

東京経済大学ニュース

Vol. 09

東京経済大学ホームページ : <http://www.tku.ac.jp/>

CONTENTS

特集1 学生グループが Google Womenwill の協力で 働き方を考えるシンポジウム開催

～私らしい咲き方 自分らしい「働き方」を求め、変えていく～

特集2 デフリンピックで快挙達成！

～陸上競技部 山田真樹選手が金×2、銀×1を獲得！～

東経大インフォメーション

- ① 「わらしべ長者プロジェクト」今年度も開催
物々交換で得た資金を「国境なき医師団」に寄付
- ② ボランティアサークル「クローバー」が地元商店会に協力
街のコミュニティ強化を目指し、清掃や見守り活動に参加
- ③ 夏のオープンキャンパス開催
平日の実施ながらも6279人の来場で賑わう
- ④ 東京経済大学CMをWEBで公開
エベレスト登頂成功の伊藤伴さん起用でチャレンジの意義を伝える
- ⑤ 「360° パノラママップ」公開
東経大が身近に感じられるバーチャルツアー
- ⑥ 障がいを持つ方々が作った製品の紹介・販売実践に協力
国分寺市障害者センター×国分寺マルイ×東経大のコラボ企画
- ⑦ 大倉学芸10月(教育)
- ⑧ 学術フォーラムを開催
地域発展のニューパラダイム
- ⑨ 大倉学芸11月(ピアノ)



特集1 学生が Google Womenwill の協力で働き方を考えるシンポジウム開催

～私らしい咲き方 自分らしい「働き方」を求め、変えていく～

Google の Womenwill と本学キャリアデザインプログラムが共同で展開する取り組み「未来の働き方」プロジェクトの一環として、「働き方を考えるシンポジウム ～私らしい咲き方～ 自分らしい『働き方』を求め、変えていく」と題した講演会およびパネルディスカッションを 2017 年 10 月 28 日（土）、本学 大倉喜八郎 進一層館（フォワードホール）で開催します。

誰もが幸せな人生を送ることができる未来をつくることをテーマとし、今年 5 月にスタートしたこのプロジェクトは、男女関係なく活躍できる世の中の創造をコンセプトとし、既に取り組みを始めている企業や団体から事例を学び、学生の視点で生み出した新たなアイデアを世の中に発信するものです。

今回のシンポジウムでは、伊藤貴将さん（経営学部 4 年）を中心とする上級生およびキャリアデザインプログラム 1 期生 1 年生の有志がチーム「TKU Unlimited (ティーケーユー アンリミット)」※を立ち上げ、Google Womenwill のサポートを受けながら準備を進めてきました。

政府が掲げる 1 億総活躍社会を実現するにはどのような働き方が必要か。就職を考える大学生や今の日本の働き方に疑問を持つ社会人など、幅広い層に興味を持ってもらい、より豊かな人生を送る「幸せな働き方」のヒントとなるようなシンポジウムを目指しますので、ぜひご参加ください。

当プロジェクトまとめ役の加藤さん（キャリアデザインプログラム 1 年）は、「自分が思っていた以上に大変ですが、とてもやりがいを感じています。多くの人に参加していただき、働くということと一緒に考え変えていくきっかけを作りたい」とコメントしています。

※TKU Unlimited (ティーケーユー アンリミット) は、本学キャリアデザインプログラムの学生を中心とした働き方を考える学生団体です。

シンポジウムの概要は次頁のとおりです。



【開催概要】

日 程	2017年10月28日(土) 15:00~18:00 (受付 14:30~)
会 場	東京経済大学 国分寺キャンパス 大倉喜八郎 進一層館(フォワードホール)
主 催	東京経済大学キャリアデザインプログラム、TKU Unlimited
協 力	Google Womanwill
参加費	無料(先着300名)
申 込	東京経済大学 Web サイト イベントページの申込フォームより

東京経済大学キャリアデザインプログラム、TKU Unlimited 主催

働き方を考えるシンポジウム

～ 私らしい働き方 ～

自分らしい「働き方」を求め、変えていく

『私らしい人になってみたい』『私らしい仕事内容の割合がほしい』『私らしい働き方』『私らしい仕事内容の割合がほしい』『私らしい仕事内容の割合がほしい』
 『私らしい仕事内容の割合がほしい』『私らしい仕事内容の割合がほしい』『私らしい仕事内容の割合がほしい』
 『私らしい仕事内容の割合がほしい』『私らしい仕事内容の割合がほしい』『私らしい仕事内容の割合がほしい』

記

日 時：2017年10月28日(土) 15:00~18:00 受付 14:30~

場 所：東京経済大学 国分寺キャンパス 大倉喜八郎 進一層館(フォワードホール)

参加費：無料(先着300名)

申込方法：東京経済大学 Web サイトトップページのイベント情報から申込ページに進み、申込フォームに必要事項を入力の上お申し込みください。

内 容：第1部：講演「～私らしい働き方～を実現するために 企業の取組みから学ぶ」
 ◆ Google Japan inc Womenwill プロジェクトマネージャー 岸田 明理 氏
 ◆ 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 企画統括室経営管理部長 田中 信義 氏
 ◆ 株式会社 JTB コーレイトセールス 企画開発課チーフマネージャー 岩本 良子 氏
 第2部：パネルディスカッション
 事前のアンケートをもとに、参加者の皆さんの疑問に答えながら討論します。

主 催：東京経済大学キャリアデザインプログラム、TKU Unlimited
 ※ TKU Unlimited：本学キャリアデザインプログラムの学生を中心とした働き方考える学生団体です。

協 力：Google Womenwill、東京経済大学

【国分寺駅からのアクセス】
 国分寺駅南口から徒歩15分
 ※お車での来場はご遠慮ください。

東京経済大学 経済学部 / 経営学部 / コミュニケーション学部 / 現代法学部 / キャリアデザインプログラム
 〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-34 TEL. 042-328-7724 (広報課) http://www.tku.ac.jp

特集 2 デフリンピックで快挙達成！

～陸上競技部 山田真樹選手が金×2、銀×1 を獲得！～

第 23 回デフリンピックが 2017 年 7 月 18 日（火）～30 日（日）、トルコのサムスンで開催され、本学陸上競技部の山田真樹選手（コミュニケーション学部 2 年）が、男子 200m および男子 4×100m リレーで金メダル、男子 400m で銀メダルを獲得する快挙を達成しました。



7 月 28 日（金）に行われた男子 200m 決勝では、22 秒 30 の快走で金メダル、さらに翌 29 日（土）の男子 4×100m リレーでは第 2 走者を務め、41 秒 66 の日本ろう新記録樹立で同じく金メダルを獲得。さらに男子 400m でも銀メダルを獲得し、合計 3 個ものメダルを手にした山田選手は、デフリンピックに出発する 1 週間前、このようにコメントしました。

「オリンピックやパラリンピックと同じように、デフリンピックの知名度を上げたい。オリンピックは 8 割以上、パラリンピックは 6 割ほどの認知度がある中、デフリンピックはわずかに 1 割強の人にしか知られていません。私が活躍すれば、もっと多くの人にデフリンピックのことを知ってもらえるはず」。

東京都知事への表敬訪問がメディアで取り上げられ、その 2 週間後に 3 つのメダルを手にした



ことで山田選手の偉業とデフリンピックの名は広く知れ渡りました。しかし、確実な手ごたえを感じながらも「4年前のデフリンピックと比較すれば、多く報道してもらえようになりましたが、まだまだ十分な知名度とは言えません」と、山田選手は話します。

山田選手が世界で戦える力を身につけた陰には、大学入学後の困難を乗り越えた経験が生きています。聴覚障がい生徒を対象とした学校に通っていたため、高校までは手話でのコミュニケーションが成立していたものの、健常者の中で活動するようになった大学入学後は手話が通じず、日々ストレスを感じるようになりました。

しかし、持ち前の明るさを活かし、積極的に周囲とかかわることで「心のバトン」が繋がるようになり、障がいの壁を乗り越えたのです。

健常者が出場する大会でも対等に戦える記録を保持している山田選手は、「今回のデフリンピックでは得意の男子400mで結果が残せなかったことが悔やしい。今後はさらに上を目指して鍛錬していく」と前向きな姿勢を見せており、今後はインカレに照準を合わせ練習に励む予定。将来の夢は、デフリンピックに出場できる選手を育成する指導者になることで、日本全国の聴覚障がいを持った人たちに「障がいがあっても世界と戦えるチャンスがあることを伝え、ひとりでも多くの人に希望を持ってもらいたい」と話します。

デフリンピックはオリンピックやパラリンピックと異なり、国や団体からの助成がなく、すべて私費での参加となります。デフリンピックも他の大会と同じように扱われることを願っています。



本学グラウンドでの練習風景。(写真中央が山田真樹選手)

東経大インフォメーション

Information 1

「わらしべ長者プロジェクト」今年度も開催 物々交換で得た資金を「国境なき医師団」に寄付

学内で物々交換を繰り返し、最終的に得た物資を換金して特定非営利活動法人「国境なき医師団日本」（特定 NPO 法人）へ寄付する社会貢献運動「わらしべ長者プロジェクト」が、昨年引き続き実施されました。

2016年に同プロジェクトを企画した本学「グローバルキャリアプログラム」所属の学生が主体となり、「5カ月間の海外留学で得た経験を基に、もう一度このプロジェクトを実施しよう」とメンバーが再集結。2017年7月10日（月）～7月14日（金）の昼休みに、本学国分寺キャンパス内、葵陵（きりょう）会館前で物々交換を実施したところ、結果として得られた金額は10,029円と目標の3,000円を大きく上回り、300人分の栄養治療食が購入できる金額を寄付することができました。

同プロジェクトの代表を務める町塚洋介さん（経済学部3年）は、「いちばん重要なのは、物々交換で現金が介在しない斬新さと、自分が持ってきたものが何かに代わるワクワク感、そして押入れの奥に眠っている価値がありそうなものを持って来るだけというシンプルさです。運営側も参加者も、みんなで楽しみながら社会貢献することができます」と、プロジェクトの魅力について話しました。

11月3日（金）～5日（日）に行われる大学祭では、学内のスペースに「わらしべカフェ」をオープンし、アナログレコードを流す居心地のよい空間の中で楽しめる物々交換イベントを開催する予定です。



学生自身が企画、運営を行い、楽しみながらボランティア活動に参加できる「わらしべ長者プロジェクト」。

Information 2

ボランティアサークル「クローバー」が地元商店会に協力

街のコミュニティ強化を目指し、清掃や見守り活動に参加

本学は、多様なイベントを通じて街のファンづくりに努めてきた国分寺駅北口周辺の商店会連合組織「ぶんじマルシェ北口連合商店会」と連携し、地域生活者と協働し街づくり活動をサポートする組織「グリーンプライド」を設立しました。

初期の活動としては、東京経済大学ボランティアサークル「クローバー」が協力し、月2回の清掃活動を通じて北口商店会エリアにおける来街者のマナー向上、さらには子どもや高齢者の見守り、コンシェルジュといった、街のコミュニティ強化に資する機能を担っていく予定です。

2017年7月14日（金）には、多摩信用金庫国分寺支店のホールでキックオフイベントが開催され、井澤邦夫国分寺市長、本学の福士正博副学長が出席しました。福士副学長は「地域の活性化はそこに住んでいる方々、そこで学んでいる人々の活動が重要になる」と、活動する参加者を鼓舞しました。「クローバー」の部長を務める渡辺友裕さん（現代法学部3年）は、「これまではキャンパス周辺を中心に活動を行ってきたが、この活動を通してより広域での活動となる。100名を超えるメンバーの多さを活かして、美化以外の活動にも積極的に取り組んでいきたい」と意気込みを語りました。

セレモニー終了後には「グリーンプライド」として初の活動が行われ、学生と同じビブスを着用した井澤市長も清掃活動に参加しました。



街の清掃や見守りを通じ、地域との連携や結びつきを深めるボランティアサークル「クローバー」の活動風景。



Information 3

夏のオープンキャンパス開催

平日の実施ながらも 6279 人の来場で賑わう

2017 年 8 月上旬、4 日間にわたりオープンキャンパスを実施し、高校生をはじめとした 6279 人の来場者で賑わいました。

本学の学びの紹介として、既存 4 学部のガイダンスや体験授業、今年度スタートした「キャリアデザインプログラム」のガイダンスやワークショップを実施。キャリアデザインプログラム第 1 期生と来場した高校生がチームを組み、与えられた課題に対して話し合いを行い、手を動かしながら試行錯誤することで協働の醍醐味を味わいました。

昨年に続き、女性限定の相談・本音トークコーナー「女子カフェ」もオープン。お茶やお菓子を楽しみながら、在学生との「女子トーク」をエンジョイする姿が見られました。風船をかたどったカードにメッセージを書いて貼り付ける「天使の羽」ボードも人気が高く、多くの来場者が記念撮影をしていました。

今後は大学祭に合わせ、11 月 3 日（金・祝）、4 日（土）にオープンキャンパスを実施。また一般入試で本学を目指す受験生向けの入試直前ガイダンスを、12 月 10 日（日）に行います。



2017 年のオープンキャンパスは、6279 人もの方々にお越しいただきました。



Information 4

東京経済大学 CM を WEB で公開

エベレスト登頂成功の伊藤伴さん起用でチャレンジの意義を伝える

夏のオープンキャンパス開催に合わせ、新潟地区と静岡地区で CM を公開しました。同 CM のコンセプトは、大学が掲げる教学ビジョン「東経大チャレンジ 2020」、「チャレンジする学生を育てる」というコンセプトに沿ったもので、2016 年 5 月にエベレスト日本人最年少登頂記録（当時）を更新した伊藤伴さん（経営学部 4 年）を起用。若手登山家として活動の場を広げる伊藤さんの姿を通じ、学生が大きな目標にチャレンジする意義を伝えています。

CM の映像は現在、YouTube 内東京経済大学チャンネルで公開しています。



東京経済大学 CM サポートクオリティ編

URL: <https://www.youtube.com/watch?v=N5nzXxQLcM8>

※CM の動画は、左記 QR コードからも視聴いただけます。

Information 5

「360° パノラママップ」公開

東経大が身近に感じられるバーチャルツアー

直接来校することが難しい受験生に「もっと大学を身近に感じてほしい」と考え、学内の主要スポットを 360° 画像で見ることができる「360° パノラママップ」を公開しました。そのなかには、新緑美しい季節の正門周辺、学生が利用するラウンジ、そして生協のある中央広場を抜け 5 号館に至る大学構内を、12 箇所の 360° 画像と複数の静止画で見ることができます。パノラマ画像を通じ、本学で過ごす日々の具体的なイメージが少しでも受験生の皆さんに伝わることを願っています。



本学ホームページ内の受験生まとめサイト、キャンパス・周辺情報等のページから閲覧することができます。

Information 6

障がいを持つ方々が作った製品の紹介・販売実践に協力

国分寺市障害者センター×国分寺マルイ×東経大のコラボ企画

経済学部・尾崎寛直ゼミナールは8年前から、障がい者の就労支援や社会参加を実践的に支援すべく、就労継続支援事業「どーむ」(国分寺市障害者センターの就労部門)とコラボレーション(以下コラボ)し、販売実践や商品開発・改善などを、ゼミの一環として行っています。このコラボに今年から、「国分寺マルイ」が加わりました。

マルイは、地域住民と共に店舗づくりをすすめ、さまざまな人が集えるプラットフォームとして地域に貢献することをめざす「共創事業」を掲げています。今年は国分寺マルイのスタッフの方々にも学生および当事者との「障がいを語る会」に参加頂きました。当事者の方々がスイーツを製造する工場の見学や、大学でのデモンストレーション販売を一緒に行う試みです。このようなコラボを通じて得た相互理解と学習、実践活動をふまえ、8月には国分寺マルイ地下1階食品売り場での「実験販売」(8月11日～13日)を行いました。また、その実績を活かし、10月に1階店舗入口そばの一角を活用し、2週間にわたる販売実践を行います。学生と当事者、施設の職員、国分寺マルイのスタッフが相互に話し合いを重ね、工夫を凝らした商品をお披露目します。

障がいを持つ方々にとって、こうした自主製品の販売はまさに社会参加の場であり、多くの人との出会いの場でもあります。国分寺駅を訪れる多くの方々に、当事者の方々が取り組んだ成果を手にとってご覧いただければと考えています。



【開催概要】

- 日 時： 2017年10月1日(日)～15日(日)
場 所： JR国分寺駅 国分寺マルイ (10:15～20:30) 1階催事コーナー
主 催： 尾崎ゼミ、国分寺市障害者センター(社会福祉法人万葉の里)、国分寺マルイ



Information 7

大倉学芸 10 月（教育）開催

インターネットやマルチメディアなどの情報コミュニケーション技術、交通・物流システムなどの進歩によって、より複雑化・流動化した社会では、技術や知識の陳腐化は激しくなり、雇用は安定していません。そのような現代社会において、個々人が、知識的・技能的・職業的基盤を確保するために、10 歳代後半から 20 歳代前半までを学校・大学で過ごせば「教育は修了」というモデルは、明らかに機能しなくなりつつあります。本講演では、テクノロジーの進歩やグローバル化が進み、社会の在り方や構造が大きく変化する中で、教育のオープン化、ゲーム化や AI（人工知能）、ビッグデータ等が、どのように教育や職業を変革するかを、事例やトレンドを通じて概観し、これからの世界と日本における課題や可能性について展望します。

Information 8

学術フォーラムを開催

地域発展のニューパラダイム

~New Paradigm of Regional Development~

空洞化、過疎化、環境問題、グローバリゼーション、そしてインバウンド… 地域を取り巻く環境が急激に変化している中で、従来とは違う地域活性化の取り組みが求められています。地域の首長および第一級の論者、財界人、行政官らを招き、先進的な事例を元に地域発展の新しいパラダイムについて議論するフォーラムを開催いたします。



日 程	2017年11月11日(土) 13:30~18:30 (開場 13:00~)
会 場	東京経済大学 国分寺キャンパス 大倉喜八郎 進一層館
主 催	東京経済大学、一般財団法人日本環境衛生センター
後 援	一般社団法人場所文化フォーラム
参加費	フォーラム 無料 (懇親会 3,000円)
定 員	320名(事前申込制)
申 込	東京経済大学 Web サイト申込フォーム URL: https://goo.gl/MwpUCp または右記メールアドレスより info.symposium.tku@gmail.com

【プログラム概要(予定、敬称略)】

総合司会：尾崎寛直 東京経済大学准教授

13:30~13:40 開会挨拶

堺憲一 東京経済大学学長

森本英香 環境事務次官

13:40~15:10 セッション1：地域と環境

・司会：

南川秀樹 東京経済大学客員教授、(一財)日本環境衛生センター理事長、元環境事務次官

・パネリスト：

田中幹夫 富山県南砺市長

鈴木悌介 鈴廣かまぼこグループ代表取締役副社長

信時正人 横浜国立大学客員教授

袖野玲子 慶應義塾大学准教授

15:20~16:50 セッション2：地域と金融

・司会：

吉澤保幸 (一社)場所文化フォーラム名誉理事

・パネリスト：

小椋正清 滋賀県東近江市市長

中井徳太郎 環境省総合環境政策統括官

太田浩史 真宗大谷派高岡教区大福寺住職、日本民藝協会常任理事

深尾昌峰 龍谷大学准教授



17:00～18:30 セッション 3：地域とグローバリゼーション

・司会：

周牧之 東京経済大学教授

・パネリスト：

新井良亮 株式会社ルミネ取締役会長

山本和彦 森ビル都市企画株式会社代表取締役社長

竹岡倫示 株式会社日本経済新聞社専務執行役員

安藤晴彦 経済産業省戦略輸出交渉官、電気通信大学客員教授

18:30～20:30 懇親会

・来賓挨拶：

杉本和行 公正取引委員会委員長、元財務事務次官

谷津龍太郎 中間貯蔵・環境安全事業株式会社代表取締役社長、元環境事務次官

武田信二 株式会社東京放送ホールディングス代表取締役

杜平 中国第13次5カ年計画専門家委員会秘書長

明曉東 中華人民共和国駐日本国大使館公使参事官(経済担当)

阮湘平 中華人民共和国駐日本国大使館公使参事官(科学技術担当)

その他若干名



Information 9

大倉学芸 11月 (ピアノ)

2017年7月、小林研一郎指揮新日本フィルとの共演でグリーグのコンチェルトを弾き、鮮烈日本デビューした13才の天才ピアニスト、奥井紫麻 (おくい しお) が登場します。このリサイタルを是非お楽しみください。



【東京経済大学 総合企画部 広報課】
〒185-8502 東京都国分寺市南町 1-7-34
TEL:042-328-7724 FAX:042-328-7768 email:pr@s.tku.ac.jp